

お客様のために

お客様満足向上の取り組み

品質基本方針

KYBでは「良い品質はわが社のいのち」の考えのもと、経営理念を具体的なモノづくりやサービスの現場での活動方針・方策へと展開し、お客様、社会の発展に貢献するため、さまざまな活動を行っています。

品質保証体制

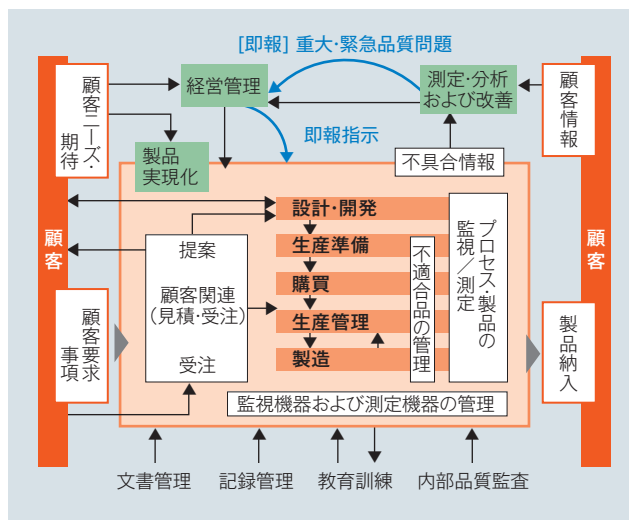
「製品品質」と「サービスの質」とともに「仕事のプロセスの質」が重要だと考えています。ISO9001認証取得をはじめ、品質保証体制の質の向上に努めています。

また、市場での品質不具合の撲滅と生産工程での不良低減・撲滅を通じた経営安定化と環境負荷低減に取り組んでいます。

工場長や本社役員による現場確認では、単に不具合箇所を指摘するだけでなく、課題を克服して成果を出したよい取り組みやモチベーション向上につながる事例などを見出し、グローバルで応用展開し、改善活動を通じた人材育成にも積極的に取り組んでいます。

開発～量産ステップ

品質マネジメントプロセスと品質保証体制



「市場やお客様のご要望に適合した性能・品質の製品をタイムリーにお届けする」ため、企画段階から量産開始までを3ステップにわけた「三段階評価による製品・技術開発」に取り組んでいます。やり直しやムダがない開発を進め、社会に貢献していきます。

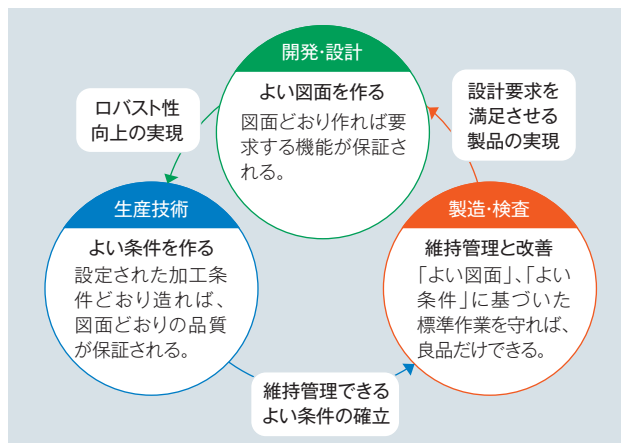
三段階評価による製品・技術開発と品質安全宣言

ステップ	三段階の狙い	品質保証ステップ
先行・モデル開発 DRO評価会	可能性の証明 (開発品質の説明・評価)	開発品質
受注開発 DR1評価会	量産性の証明 (開発品質の説明・評価)	立上がり品質
量産開発・生産準備 DR2評価会	応用性の証明・シリーズ化 (立上がり品質の実証・評価)	量産品質

↓ 量産

品質安全宣言
本生産を開始する前に量産製品としての品質が確実につくり込んでいることを明らかにする

KYBの目指す姿：品質未然防止のサイクル



お客様への情報発信

展示会はお客様から直接ご意見をうかがえる貴重なコミュニケーションの場と考えています。今後も各国の展示会に参加していきます。

出展した展示会（一部）

展示会	出展	場所
FOOMA JAPAN 2014	ADS冷凍肉プレス機など	日本・東京ビッグサイト
IFPEX2014	農業機械/建設機械用油圧製品群	日本・東京ビッグサイト
InnoTrans 2014	鉄道機器用油圧製品	ドイツ・ベルリン国際見本市会場
中国国際農業機械展	農業機械/建設機械用油圧製品	中国・武漢国際博覧中心
bauma China 2014	小型油圧ショベル製品など	中国・上海新国際見本市会場
InterAqua 2015	生活用水浄水機など	日本・東京ビッグサイト
ライティング・フェア 2015	ECOLVDなど	日本・東京ビッグサイト
CONEXPO-CON/AGG&IFPE 2014	建設機械用油圧製品など	USA・LAS VEGAS CONVENTION CENTER

お取引先様とともに

パートナーシップの構築

調達基本方針

KYBは、企業のCSRを果たし、社会に信頼される企業であり続けるよう活動しています。KYBがモノづくりを通じて継続的な事業発展を果たし、豊かな社会づくりに貢献していくために、お取引先様は商品づくりの大切なパートナーです。以下にKYBの調達の基本的な考え方をご紹介します。詳しくはwebサイトをご覧ください。

<http://www.kyb.co.jp/company/csr.html>

調達の基本的な考え方

- | | |
|-----------------------|----------------|
| 1 お取引先様と共存共栄を目指した調達活動 | 6 納期対応 |
| 2 法令の遵守 | 7 自然環境の保護 |
| 3 品質第一 | 8 グローバル調達体制の構築 |
| 4 安全衛生・人権・労働 | 9 危機管理 |
| 5 継続的原価低減活動 | 10 機密情報管理 |
| | 11 腐敗防止 |

2014年度調達方針説明会開催

KYBとお取引先様との連携強化のため2014年度も「KYB調達方針説明会」(東京會館・東京都千代田区)を開催しました。当日、196社のお取引先様をお迎えし、会社および調達方針を説明し、またQCDを意識して活動され効果を上げた優良なお取引先様に対する表彰を行った後、お取引先様を囲んでの交流懇親会も併せて開催しました。



2014年度 調達方針説明会

取引先テーマ研究会による改善活動

取引先テーマ研究会は2014年で8年目を迎えます。同研究会は、「お取引先様が抱える多くの課題の中でお取引先様自身だけでは解決が困難なことやお取引先様同士の共通課題を取り上げ、共同で研究していくこと」を目的とする自主的なチーム改善活動です。2014年度は安全、不良低減や労働生産性向上をテーマに、48社が7チームにわかれて活動を展開し、2015年3月の成果報告会を最後に1年間の活動が終了しました。

BCP(事業継続計画)活動状況調査について


東日本大震災の教訓から今後、発生が懸念されている三連動地震(東海・東南海・南海)に備え、お取引先様のBCP活動状況を把握することは重要であると考えています。主要なお取引先様を中心に全7項目(1.地震発生時に従業員を守る 2.二次災害を防ぐ 3.安全な避難経路 4.地震速報・備蓄 5.早期復旧対応 6.対応体制 7.仕入先被災対応)に対しアンケート形式の調査を実施し、自己評価をしていただきました。67社74事業所からの報告をいただき、取り組み状況の把握ができました。調査結果をお取引先様へフィードバックし、同活動を進めるに当たり、人命尊重を優先に着実に活動していただくようお願いしました。

紛争鉱物(コンフリクト・ミネラル)への対応

アフリカのコンゴ民主共和国および周辺国の紛争地域において、同地区から産出される鉱物4種(タンタル・タングステン・すず・金)を紛争鉱物と定義し、採掘される鉱物資源を購入・使用することで武装勢力の資金源となり、紛争地域での人権侵害等に寄与していないこと等を確認することが求められています。

KYBグループ企業は、CSRの視点や米国金融規制改革法(ドット・フランク法)の趣旨に基づいて、お客様やお取引先様と連携し、不正に採掘された紛争鉱物の不使用に向けた取り組みを行っています。

Hong Leong Yamaha Motorより「最優秀サプライヤ賞」を受賞

KMSB(マレーシア) 

2014年10月、クアラルンプール郊外の会場で行われた「Hong Leong Yamaha Motor VENDOR AWARD 2014」において、Hong Leong Yamaha Motorより、最優秀サプライヤ賞を受賞しました。この賞は、品質、納期、価格協力など総合的な評価を行い、大きく貢献したサプライヤ12社が選ばれました。次年度も受賞できるよう活動を行っていきます。



Hong Leong Yamaha Motor表彰式



地域社会のために

社会支援活動

職業リハビリテーション研究・実践発表会

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構の依頼を受け、第22回職業リハビリテーション研究・実践発表会において「休職者の復職支援における効果的な連携」についてパネルディスカッションを行いました。企業、医療機関、支援機関が連携を図ることの重要性を説明し、参加者からも高い評価が得られました。今後も、各機関と連携を密にして活動を続けていきます。



会場となった東京ビッグサイト



参加パネリスト

セルバンティーノ国際芸術祭への協賛 KMEX(メキシコ)

ラテンアメリカにおける最も重要な芸術・文化の祭典であるセルバンティーノ国際芸術祭。42回を迎えた2014年は、日墨交流400年の記念の年でもあり、日本は特別招待国として日本の芸術・文化の魅力を伝えました。日頃私たちの企業活動を行っている地元への感謝として、KYBからも協賛金を贈呈しました。経済成長著しいメキシコにおいて、日本企業が重要な位置を占めてきたことを実感するとともに、その発展の一躍を担えればと願っています。



セルバンティーノ国際芸術祭

チャレンジスクール協賛

元F1(フォーミュラワン)ドライバーの片山右京氏が「F1・登山・自転車」など、多様な挑戦を続ける中で感じたスピリットを、未来を担う子供たちに伝えていきたいという思いからスタートしたTeam UKYOチャレンジスクール。次世代を担う子供たちがさまざまな活動を通して「自然を慈しむ心」「挑戦する心」「最後まで絶対にあきらめない気持ち」を育む、アウトドア型体験プログラムです。KYBはこの活動に賛同して支援を行っています。



チャレンジスクールに参加した子供たち

可児工業高等学校でのモノづくり教育

KYBでは、工業高校への実践教育と将来の技能者育成を主眼に、産官学と連携して岐阜県立可児工業高等学校の「高校生ものづくりコンテスト」出場のお手伝いに5年前から取り組んでいます。

岐阜南工場の技能訓練所に生徒を招き、当社の技能講師が1カ月以上にわたり訓練を行いました。この結果、2014年度は東海地区大会ではみごと優勝を果たし、全国大会に出場しました。

今後も地域社会との共生のために、企業と学校・官庁が一体となった活動に取り組んでいきます。



東海地区大会優勝賞状



旋盤加工の競技風景

■ 本中で企業マルシェを開催

宮城県東京事務所のご支援をいただき、2015年2月本社（東京都港区）で企業マルシェ（宮城物産展）を開催しました。本社には常設の売店や生協がないため、どのくらいの人数が集まるか不安でしたが、当日は大勢の従業員が訪れました。

東京近辺では購入できない商品も多くあり、改めて宮城県の物産の魅力を感じることができました。

当日、商品を購入した従業員の中には、今後も県のアンテナショップや通信販売で宮城県の商品を購入したいとの声も聞かれ、被災地産品の消費拡大のお役に立つことができました。



盛況となった物産展

■ 障がい者就労支援

当社の岐阜地区では、岐阜県教育委員会、特別支援学校および企業が一体となって障がい者の就労支援を進める「働きたい!応援団 ぎふ」に3年前から登録しています。このたび特別支援学校の卒業生の雇用や職場実習の受け入れを継続している当社を含む企業10社に対し、教育委員会より感謝状が授与されました。特別支援学校には就職して、自立したいと考えている生徒が多勢います。引き続き障がい者の就労支援を進めていきます。



表彰式が行われた大垣市サイトピアセンター

■ 小学生向け持久走教室

KYB陸上部が地元小学校を訪問し、体育の授業でランニング指導を行いました。福岡国際マラソンなどにも参加する陸上部員が子供たちとのひとときを楽しみました。この活動は2005年から行われており、生徒からも人気のある地域貢献活動の一つとなっています。



走り方の指導をする陸上部員



子供たちと

■ 桜が取り持つ友好

中国鎮江市に生産拠点を置くKYBでは、社会貢献の一環として地元の江蘇大学のキャンパス内に、桜の庭園を造園する際に750本の桜の苗木を寄贈しました。庭園は「江蘇大学-KYB桜花友誼園」と命名され、多くの関係者が見守る中、江蘇大学学長、鎮江市新区書記などの来賓が出席し、開園式が開催されました。

これから毎年、美しい桜の花が日中友好のシンボルとして咲き続けることを願っています。



除幕式後に学生と交流する社長の白井

地域社会のために

社会支援活動

看護大学産業看護実習での安全教育

岐阜地区工場では、岐阜県立看護大学3年生の産業看護実習を1~2日コースで受け入れています。実習では主に健康管理について学びますが、従業員をけがや病気から守るという安全衛生の観点から安全体感道場の見学も加えています。安全担当から具体的な事例を聞き、予防教育の重要性を知り、「従業員の健康を守る活動に、会社を挙げて取り組んでいることがよくわかった」などの感想が聞かれました。



安全体感機の説明

相模原の環境をよくする会

「相模原の環境をよくする会」は、公害を未然に防止し、豊かな自然を守り快適な環境をつくるため、毎年四季を通じて環境の変化を監視しています。当会の会員として当社は自然保護活動に参加しており、2014年度は「河川生物調査」と「自然観察」「野鳥観察」に参加しました。



河川生物調査



野鳥観察

地域清掃活動への参加

本社のある港区では、芝地区生活安全・環境美化活動推進協議会が主催する芝地区クリーンキャンペーンが行われており、当社もこの活動に参加しています。

この活動では町会、自治会、商店会、PTA、企業などが参加して路上喫煙等禁止の啓発活動、清掃活動などを行っています。

地域の一員として自分たちの働いている地区の美化に協力するとともに、普段はあまりお会いする機会のない町会や自治会の方と一緒に活動しています。



線路脇の清掃活動

産業フェアin可児2014に出展

2014年11月に、可児商工会議所主催の「産業フェアin可児2014」が開催されました。このフェアは、各社の製品・技術・サービスなどを可児市内外の皆さんに広くアピールするとともに、地域の活性化に寄与することを目的としています。今回は可児市内から92社が出展し、約2万人の人出で賑わいました。当社も市内の3工場（岐阜北・岐阜南・岐阜東）で生産する製品を展示し、子供たちにも人気でした。



家族で楽しむKYBブースの様子

インドの見本市に出展

KCPL(インド) 

KCPLは、デリー近郊で行われたインド最大級の建設機械見本市「bC-India」に出展しました。KYBでは2種類のミキサ車を含むコンクリート機械7製品を展示し、当社の品質力をアピールしました。また、日本文化の紹介の一つとして野点(のだて)を催しました。日本人の先生のお点前に合わせて茶道やその作法を説明すると、大勢の来場者が興味津々で足を止め、初めての抹茶を楽しんでいました。



野点の美演



KYBブース

従業員とともに

人財の活用と職場環境づくり

基本的な考え方

ライフスタイルの変化や働き方の多様性を生かした、より効率的な人財活用を促すため、働きやすい人事・福利厚生制度や職場環境づくりに取り組んでいます。これらの課題について、労使による人事・福利厚生制度検討委員会を設置し、従業員の多様なニーズにマッチした働きやすい職場環境づくりを目指し、「ワークライフバランスの推進」「仕事と家庭の両立のための支援制度」「社宅独自寮の有効活用」「選択制福利厚生制度(カフェテリアプラン)」などのテーマの検討を進めています。

健康セミナーの開催

KYBでは毎年、秋の全国労働衛生週間に合わせて、健康セミナーを開催しています。2014年度、相模工場では「肩こり、腰痛、膝痛に効果的!簡単ストレッチ&トレーニング」と題し、スポーツトレーナーによる運動指導を行いました。参加者からは、「日常生活にも無理なく取り入れられる内容で役に立った」と非常に好評でした。



ストレッチで体をほぐす従業員

技能五輪全国大会

技能五輪全国大会は、満23歳以下の技能日本一を競う大会で2014年は愛知県で開催され、41職種に約1,200名の若者たちが出場しました。

若手技能者育成を目的として、旋盤職種に人事本部人財育成センターから天池瞭太が出場しました。参加者が多い旋盤は、約5時間の中で一つひとつの部品精度を極限まで高め、5種類の部品を加工し組み立てなければならない競技です。今後も若者に夢と希望を与える技能者育成を進めていきます。



旋盤で加工の様子



課題の5部品

新入社員研修での野外体験学習

「KYBグループ力で成果を出せる人財の育成」を目的に、2011年度の新入社員研修から、野外体験学習(神奈川県足柄研修)を実施しています。業務で同じように直面する「最適解を求める課題」が与えられ、それぞれのチームで課題にチャレンジする研修です。

そのチャレンジ過程で、

- ①自分で考え、主張すること
- ②相手の意見を聴くこと
- ③チームで達成していくこと

など、会社での成功パターンやコミュニケーションを学び、連帯感と達成感を体験します。

この野外体験学習は、新入社員研修の中で一番印象に残る研修となっています。

今後も体験学習を継続し、「活気あふれるKYB風土」醸成に寄与していきたいと思えます。



「Aライン」の課題で一致団結



力を合わせて目的を達成!

VOICE

新入社員研修を受けて

新入社員研修の一環として、野外体験学習を行いました。野外体験学習では、チームで課題に挑戦します。「Aライン」という学習では、「与えられた道具を使ってどのようにゴールするか」が課題でした。人によってさまざまな考え方や方法があり、出された意見をまとめることはとても難しいことでしたが、チームで協力しながら困難な課題を解決することができました。一人では難しいと思っていた課題をチームで活動することによって解決できたことは、とても貴重な体験となりました。また研修を通してチームが一つになり、同期入社の人々との距離が縮まり団結力も高められたと思います。今後、これらの体験を配属先の業務に活かしていきます。



左 滝川 唯 (AC事業本部 第一営業部)
右 西牟田 紀恵 (人事本部)

従業員とともに

人財育成と技術力の向上

LT50活動

「LT50活動」はモノづくりのリードタイムを50%削減する活動です。

生産の方法だけでなく、部品の調達やお客様への輸送、業務効率の向上も含まれています。

原価低減、品質向上、さらには環境保全や安全につながる活動です。KYBグループ全体の活動として、関係会社だけでなく海外拠点にも展開しています。

改善例 - 1

二輪部品庫フォークリフトレス活動 (KYBモーターサイクルサスペンション(株))

改善前

部品メーカーから納品された一部のスプリングを鉄パレティーナ(鉄製の籠)に收容し、フォークリフトで荷揃え場へ移動させ、ライン投入用の箱に詰め替えていました。



フォークリフトレス
作業時間の短縮

改善後

お取引先様のご協力により、納入荷姿を小さなポリ箱に切り替えることで、手扱い作業が可能となりました。



改善例 - 2

大型シリンダの重量物運搬(岐阜南工場)

改善前

4mの長物の重量物(ピストンロッド)を幅2.2mの通路で、フォークリフトで運搬していました。



安全性・作業性の向上

改善後

ピストンロッドの姿勢を横から縦へ変え、横幅を1.1mとし、けん引車による運搬に変更しました。



モノづくり技術発表会(からくり展)開催

モノづくり力を高めること、現場での「問題発見力」、「改善力」、そして「それを継続する力」を養うことが会社の基盤強化につながります。2014年度は、「モノづくりの原点は創意工夫を凝らしたからくりである」との考えから、からくり技術をメインとした技術発表会を開催しました。展示エリアには環境・安全・品質・生産など71テーマのコーナーが設けられました。また社外講師をお迎えして、講演会「からくり技術による現場のモノづくり力強化」を開催し、社長をはじめ約130名が聴講しました。モノづくりの工夫を競い合い、学び合う場として大変有意義な発表会となりました。



からくりを使った搬送装置

グローバル技術者研修

海外生産拠点のモノづくり力向上を目指して、2006年からグローバル技術者研修を実施しています。本研修は、現地・現物で「対話方式の抗議」「体感実習」「先進工場の見学」を柱に、半月または1カ月間行われます。基礎から応用までの技術を習得したのち、自拠点の改善案を作成し、帰国後はその改善案を実行してもらいます。

2014年度は4コースを、9カ国16拠点から48名が受講しました。自拠点の現場改善を推進できる人財の育成に重点をおき、KYB生産方式を学ぶコースは2回の実施に拡充しました。

今後も本研修を継続し、海外生産拠点のモノづくり力強化を推進します。



実習器を使った研修

グローバル・ネットワーキング・プログラム

グローバル・ネットワーキング・プログラム(GNP)は経営知識を身につけるとともに、世界中のKYBグループ従業員がコミュニケーション能力を高め、ネットワークづくりを推進することを目的に開催しています。初開催となった2014年度は、米国・欧州・中国・アセアン・日本から10名が参加しました。

メンバーはKYBをよりよい会社にするための提言を、活動成果として発表しました。今後も継続してGNPを開催し、多くのグローバルスタッフに参加してもらい、KYBグループの一員として活躍できる人財育成の機会としていきます。



白熱するグループ討議

KYBグローバル生産会議

2014年11月5日から3日間にわたり、岐阜北工場において海外を含めた23拠点51名が出席した「KYBグローバル生産会議」が開催されました。環境や安全、品質、生産をテーマとして活発な意見交換が行われました。

環境については、相模工場のエネルギー・廃棄物低減活動事例、安全面ではKYB-YS(株)での従業員の意識改革による労災低減事例や設備の安全化活動についての紹介がありました。会議では、活発な意見や質問などが出され、情報の共有化が図られました。



担当役員による方針説明

従業員コミュニケーション

スポーツ・文化交流大会

「未来へつなごうKYBの絆」をスローガンに、長野県でスポーツ・文化交流大会が開催されました。初めてのグループ会社共催(KYB-YS(株)、KYB-CADAC(株))となった今回は、蕎麦打ち競技や温泉地での宿泊など信州を満喫できる大会となり、約850名が参加しました。また、フットサルには海外からスペイン、タイ、ベトナム、インドネシア、マレーシアの5



フットサル

チームが参戦し、年々国際色豊かな大会になってきています。秋晴れの信州はKYBグループの熱気に包まれ、絆もますます強まりました。



蕎麦打ち競技

第7回「KYBロボットコンテスト」開催

2014年11月8日に相模工場にて第7回「KYBロボットコンテスト」が開催されました。今回の課題は、ゴルフです。国内(グループ会社含む)17チーム、海外5チームの計22チームが参加しました。多種多様なショット、バッティング機構にKYBのモノづくりスピリットを感じさせられました。

今回はPT.KYBI(インドネシア)が初優勝し栄冠を手にしました。従業員とその家族の総勢340名の来場者により、当日は大変盛り上がりしました。



バッティングに挑戦

従業員とともに

安全で働きやすい職場づくり

「止める・呼ぶ・待つ」を掲げ活動

2012年度から「安全はすべてに優先」をスローガンに掲げ、全社一体となって活動を行ってきました。安全担当役員を委員長とした全社機能の「環境安全委員会」を中心に、各事業所の「安全衛生委員会」が中核となり具体的な活動を行っています。

2014年度は災害の未然防止を最大のテーマとして「止める・呼ぶ・待つ」をスローガンに活動しました。設備の異常などで問題が発生したら、すぐに作業を停止させ、上司に報告。指示を待つことを徹底しました。その結果、2014年度下期では設備異常処置での災害がゼロとなりました。今後も呼び出し用のボタンや通信端末などを整備し、労災ゼロに向けた活動を継続していきます。

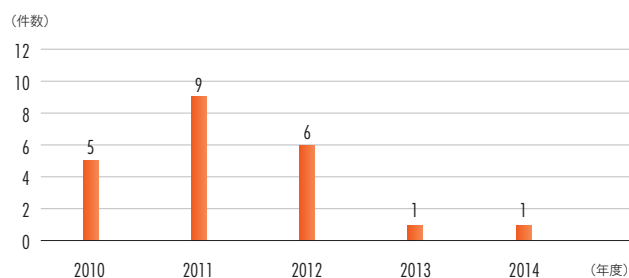


啓蒙ポスター（岐阜南工場）

休業災害の低減

製造ラインおよび実験開発部門などの間接部門も一緒になってあらゆる作業を徹底的に洗い出し、そのリスクアセスメントを実施しました。2014年度においては、特に危険とされる不安全箇所（落下の危険がある箇所、大きなエネルギーを持つ設備など）の改善を実施しました。約50%の改善を行った結果、休業災害など重度の災害を未然に防止することができました。今後は設備異常時の対応などの作業に重点を置いてさらに改善を進め、労働災害の撲滅まで活動を継続していきます。

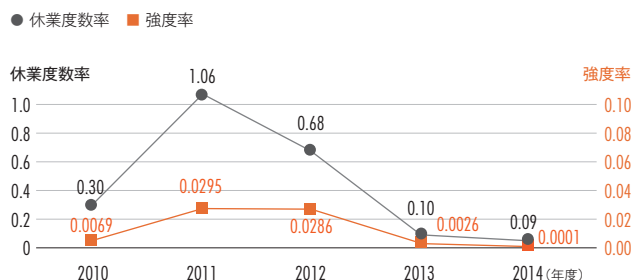
休業災害件数



休業度数率・強度率の低減

2011年度から2012年度にかけて挟まれ、打撲、転倒などの災害が多発しました。これは設備の不安全箇所や通路、階段における凹凸、手すりの未設置などが原因で発生していました。そこで2014年度においてはこの3大労災の撲滅をスローガンに安全相互点検、設備安全の見直しなどを行い、危険箇所を徹底的に洗い出しました。その結果、駆動部分の露出、両手スイッチ化の未整備、物の置き方の不具合、不要物などが多数見つかりました。これらは安全作業を遂行する上で大きな妨げとなるため、関係者一丸となって改善に取り組みました。その結果、休業度数率、強度率を大きく低減することができました。今後もこの活動を地道に継続し、労災ゼロを目指していきます。

休業度数率・強度率



※休業度数率=(休業者数/総労働時間数)×1,000,000
 ※休業強度率=(休業日数/総労働時間数)×1,000

第73回全国産業安全衛生大会にて発表

広島県で開催された、「第73回全国産業安全衛生大会2014」にて、不安全行動に起因する労働災害の低減を目的として「安全意識高揚運動の取り組み」と題し研究発表を行いました。階層別の安全意識の繰り返し調査、分析に基づき上司が部下の安全意識レベルを把握、意識レベルの弱い部分を上司が面談して補完したこと、などの活動により、意識レベルの向上が図れたことを報告しました。

当日は大勢の方に聴講いただき、発表後の問い合わせも多かったことから、安全意識調査の関心が高いことを実感しました。



発表者 KYB-YS(株) 寺沢 昇

安全相互点検の実施

国内各工場の安全実務者が相互に工場を点検する「安全相互点検」を実施しました。駆動部の露出や歩行路など、3大労災の主な原因となる危険箇所を重点的に点検しました。他工場の安全実務者が新鮮な目で見ることによって潜在的な危険源を発見し、労災の未然防止を図っています。

また1年間の活動で出された指摘事項の改善や、よい事例の展開はそれぞれの工場では計画に基づき実施しています。非常に地道な活動ですが、今後も継続して行っています。



不具合を指摘する点検者

フォークリフト削減活動

岐阜北工場では、2006年に143台のフォークリフトを使用していました。フォークリフトは安全性に問題があるため、2007年よりフォークリフトレス活動を開始し、手扱ひできる製品および重量物である鉄器具関係の集配を、より安全な電動けん引車に切り替えました。2014年は94台まで削減しています。

今後は工数変化の対応も考慮しつつ、生産タクトの異なるラインからもけん引車による引き取りを行いながら、フォークリフト削減を進めていきます。



改善前
フォークリフト



改善後
電動けん引車

安全体感道場

KMSB(マレーシア) 

「0 Accident is My Aim」を目標に掲げ、安全活動を各種行ってきました。さらなる活動の強化を図るため、KYBグループ、お客様の安全教育を参考にして、安全体感道場を設置しました。こちらでは、回転体、バリ・切粉、エアブローなどの危険箇所をシミュレーターを使って、疑似体験できます。

さらに、機械の危険箇所だけでなく、消火器の使用方法、作業者の服装・保護具、通勤バイクの服装などの資料展示を行い、安全全般にわたり教育ができるようになりました。今後も災害ゼロを目指し、活動を積極的に進めていきます。



安全体感道場内



作業者保護具

社内診療所の設置

KAC(アメリカ) 

米国では従業員が通院すると、会社が25%の医療費を負担しなければなりません。KACでは医療費が非常に高額であることに対応し、会社内クリニックを開設しました。従業員、家族への利便性が向上し、さらに2014年4月開設以降で多くの医療費を削減することができました。

また工場内に医療スタッフが常駐しているので、緊急時には迅速な対応が可能となりました。今後も多くの従業員がサービスを利用できるようにしていきます。



左:医師 Michelle Wallace
右:看護師 Jyoti Singh



診療所内



Our Precision, Your Advantage

www.kyb.co.jp

お問い合わせ

KYB 株式会社

環境・安全部

〒105-6111

東京都港区浜松町二丁目4番1号世界貿易センタービル

TEL.03-3435-6465 FAX.03-3436-6759

用紙での配慮



森の町内会
この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。



FSC® 認証紙の使用
適切に管理された森林の木材を原料にしている紙を使用しました。

印刷での配慮



グリーンプリンティング
環境に配慮した印刷工程と印刷資材を採用しています。



Non-VOCインキの使用
VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの環境に配慮した100%植物油インキを使用しました。



水なし印刷
有機物質を含んだ廃液が少ない、水なし印刷方式で印刷しました。